

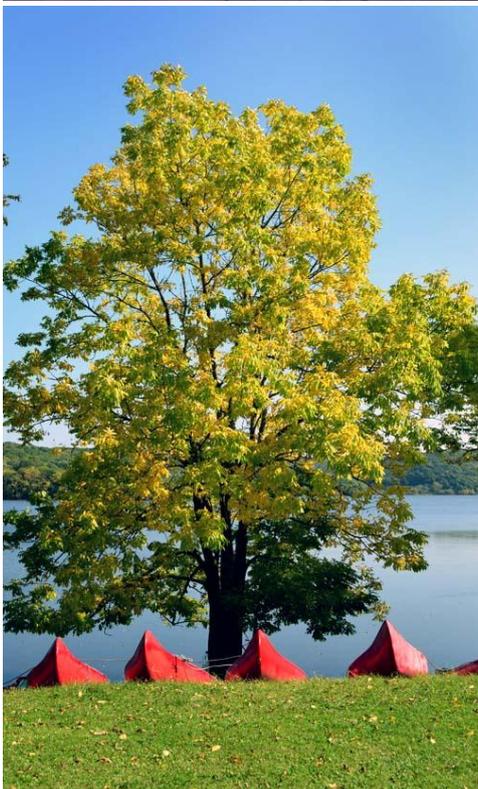
月刊 やちまなこ

2013.10.15 発行

No. 191

10月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



夕日の色に染められたような山葡萄の葉、輝きを失った丘陵地を背景に雪虫が飛び交い、遠くから雄ジカの甲高い鳴き声が聞こえ、釧路湿原の秋は日毎に深まってゆく。昼と夜の気温差も大きくなり、観光で訪れた人の中にはダウンジャケットを着た人もいて、道内の高い山や峠から次々と雪の便りが聞こえてくる日も近くなってきたようだ。

コッタロ川と湿原のほとりから

160 10月のコッタロ湿原便り

コッタロ在住・中本 アキ子(文) 中本 民三(写真)



山粧う頃となり、冬の使者達が上空に見え隠れする一方で、夏鳥の旅立ちもそろそろ終盤を迎えた今、幸運にもノゴマとビンズイが別れのあいさつに来てくれて驚喜しているところです。

晩秋の意外な暖かさにカラマツ林下で育てている椎茸の爆発的発生に大わらわ。又、ほのかに色付き始めた山々や、お色直し途中の湿原では、風のロンドに誘われてもするかのように踊り出す枯葉の音符が北ヨシの群落にサワサワと舞降りているではありませんか。庭に目をやれば、季節はずれのさわやかな陽光に映ゆる咲

き残りの白いコスモスの双児花が、丹頂一家3羽のたたずむ台地の上を掃くように流れる一朵の雲と共に、えも云われぬ風情をかもし出しており一幅の絵画のようでしょう？

ところでこの気持のよい日和に気をよくしてスルスルスルと這い出て来てのんびりと池のほとりを散策していた大きな蛇に気をとられて、秋耕こし中の畑で一服しているところへ、たまたま罎から飛来した丹頂等に見つけられたからたまらない。動く物は何でもエサとみなし有難がるツル族にしてみれば蛇は大御馳走！大騒ぎし乍ら水中での死闘もむなしく、とうとう“秋野蛇ゆるり散歩の夢のあと”と相成りました。

さて、10月1日に解禁のエゾ鹿猟で北海道中の鹿は受難の時を迎えていて、人間と獣との飽くなきバトルがくり広げられておりますが、決着する日は訪れそうもありません。これより先の9月22日がコッタロでの雄叫び初日でしたが、交尾期特有のテナーヴォイスでのユーモラスな啼き声が響き渡るのは未だまだこれからと云ったところです。



湿原の住人たち その151

ナナカマド

来館者数人とナナカマドの話しをしていたら「ナナカマドって庭木にしない方がいいんだって」「えっ、どうして?」「7回かまどを返すといって縁起が悪いらしいよ」「初めて聞いた~」「7回かまどに入れてもなお燃え残る木じゃないの?」等々。北海道では市町村の木として指定している自治体が多く、街路や公園に植えられていますし、絵入年賀ハガキや切手（雪が積もったナナカマドの実の絵柄）でも目にする身近な木なので話題が広がったのかもしれませんが。家によって伝え聞く説が違うのも面白いですね。今季は実の生りが良く、荒涼とした風景になってからも、赤い実が人と鳥の目を惹くことでしょう。



6月、径約1cmの花弁5枚の白花を多数つけます

「第19回タンチョウイラスト巡回展」開催中（19日まで。入場無料）



（公財）日本野鳥の会 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ主催の「タンチョウイラスト巡回展」を開催しています。釧路・根室管内に住む小中学生が、ハガキ大の用紙に描いたイラスト520点をレクチャールームに展示しています。

タンチョウへの興味・関心を深めてもらうためイラストを募集し作品展を開催しているもので、中には切り絵や貼り絵で工夫した趣のある作品もあります。タンチョウの様々な様子を描いた子どもたちの力作を是非ご覧下さい。

ネムネムの標茶うろうろ日記 Vol.45「想像と妄想は紙一重？」

私の仕事のひとつに『自然の話をわかりやすく伝える』というのがあります。これには少なからず妄想力…いえ想像力が必要になります。聞き手がより共感できるような話題を考えて、それに例えていく作業だからです。

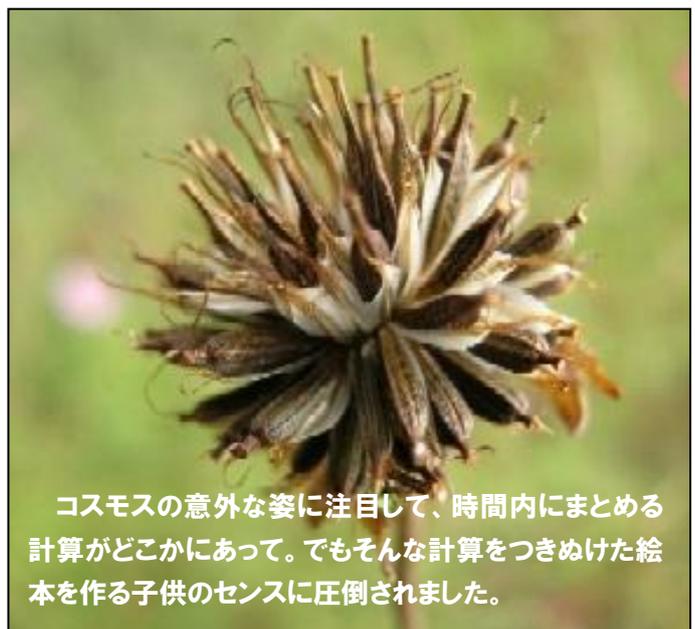
先日図書館で、身近な自然をデジカメで撮影して絵本を作る講座があり、応援スタッフとして参加しました。講師からスタッフも一緒に作りませんかと誘われ、参加者と一緒に公園で写真撮影。花びらが散ったコスモスを見ていたら、「私、もう若くないし…」というアラフォーのため息を感じてしまい。ふとまわりを見ると刈ったまま放置されている芝や、道路の脇に溜まっている枯葉からも「昔はもっときれいだったのに!」と愚痴が聴こえてきます。はたからみれば妄想と幻聴にとらわれた、かなりアブナイ人です。

そして出来た絵本は『コスモスばあさんのなげき』（アラフォーだとちょっと生々しかったので、おばあさんに変更）。もう若くないと嘆くコスモスに、ミズナラじいさんが「自分がドングリを残したように、君にも残せたものがあるんじゃないかね?」と語りかけ、花が終わったコスモスにはタネが出来ていた、というお話にしてみました。

辻 ねむ（標茶町郷土館学芸員）

10がつ5にち

ばしょ しべちゃ



コスモスの意外な姿に注目して、時間内にまとめる計算がどこかあって、でもそんな計算をつきぬけた絵本を作る子供のセンスに圧倒されました。

